

2012年度 日韓学術交流委員会 報告

第2期（通算23期）副会長／前国際学術交流促進委員会委員長

野口 定久（日本福祉大学）

日本社会福祉学会第60回秋季大会における国際学術シンポジウム（2012年10月20日、関西学院大学上ヶ原キャンパス）は、総合主題：「多様性と人権，そして社会福祉教育の課題」およびサブ課題：「多様な福祉問題の解決と支援の方法論をめぐって」をテーマにして、日本（2名）・韓国（2名）・中国（1名）の研究者5名による報告がなされた。

今回は、日中関係悪化の中で中国社会学会社会福祉専門委員会副理事長（銭寧：雲南大学社会学／ソーシャルワーク学部主任教授）の参加を得て、日中韓それぞれの社会福祉学会での学術交流が進展し、東アジア社会福祉学会再建への視界が広がった。2011年度－12年度の4回にわたる日韓社会福祉学会のテーマは、すでに、2011年4月（韓国）：多様性と社会福祉理論体系の再構築、2011年10月（日本）：文化的多様性と社会福祉の課題、2012年4月（韓国）：家族構造の多様性と社会福祉の対応、2012年10月（日本）：多様性と人権，そして社会福祉教育の課題、というテーマで報告がなされ、一応の収束を見ることができた。

同日、日韓学術交流委員会が開かれ、次の諸点について協議がなされた。

①これからの日韓社会福祉学会国際シンポジウムの共同テーマについて韓国側との協議のうえ、2013年・2014年の2年間のメインテーマは、「新しいリスクに対応する社会福祉の課題と展望」とし、2013年春・秋、2014年春・秋の4回のサブテーマは第60回大会の会議の中で決定する。

②第2期日韓シンポジウムの出版等企画について、今季（第2期）のシンポジウム（4回）をとおして発表したテーマと討論の内容をあつめ、2013年に、『日韓社会福祉比較研究叢書』（仮題）を日韓両国において出版、あるいは報告書として刊行する。ただし、日本側は、ホームページ上での発表を考えている。双方、この方向で合意をみた。

③次期（第3期）「日本・韓国における研究交流の推進に関する覚書」を締結した。

④日中韓社会福祉国際交流の方向に関して、中国社会福祉専門委員会代表の先生方にオブザーバーとして参加していただき次の事項を確認した。2カ国間の交流及び協定は、それぞれの間のルールで進めること。さらに、当面は、3国間で社会福祉学会（社会福祉専門委員会）の研究交流を進めながら、3カ国間協定に発展させる。

以上の確認に基づいて、国際学術交流促進委員会は、これらの協議事項を着実に前進させていく考えである。

本年9月21日・22日の第61回大会（北星学園大学）において、さらに日中韓社会福祉学会の交流が進展することを期待する。